

「マニフェスト選挙」に思う

小藤捷吾



■史上初の「本格的マニフェスト選挙」

この拙文が皆さまの目に触れるころには、今回の衆議院選挙は間違いなく決着しているわけですが、この原稿を書いている今は、投票日迄まだ1週間、お盆過ぎの残暑厳しい1日です。今回の選挙は「わが国では初めての本格的なマニフェストによる国政選挙」と言われています。マスコミもさかんに各党派の比較論などを特集しています。

昨年の<リーマンショック>の影響などがあって、世界はこれから新しい<社会モデル>や、<社会秩序のあり方>を、模索していかなければならない時期に入ったことを、<Change>と叫んだオバマのみならず誰もが感じ始めているだけに、今回の選挙が、<極めて重要な意味を持つ選挙>であるということは紛れもないと感じています。

そこで、日頃は政治に若干無関心な私も各党の「マニフェスト」を2~3覗いてみることにしました。しかし結果は各党とも、工夫した演出の「マニフェスト」を出しているのですが、文面だけではどの党の政策が期待できそうなのか実のところ良くわかりません。色々良い事が書いてあるのですが、私にその課題の現状認識ができていない所為もあり、その政策でどの程度の成果が望めるかも書いていないからです。

一つだけ例を挙げますと<少子化問題>。<新しい給付金制度>や<費用免除>など様々な提案がなされています。しかし、この制度をいつから実施すると、何年後から成果が出て、出生率アップにこれだけ(〇〇%)寄与すると想定している、などとはどこにも明示されていません。<やらないより、やったほうが良い>ことは判るが、効率の高い施策かどうかは判断が難しいのです。また、これでは将来、この施策が適切であったかどうかを検証することもできません。

「ある民間の研究所」が昨年、「マニフェストの様式を統一せよ」ということを提言していました。統一様式だと各党の比較という意味では解りやすくなるという趣旨のものだったと記憶しています。確かにそれも一理ありそうだと考え、それじゃというので様式を考えてみました。出来上がった様式は次のとおりです。

1. 基本理念

1) Mission

世界の中でどのような役割を果たしていくのか

2) Dream

国民の生き甲斐や生活をいかに進化させるのか

2. 基本政策とその目標値

3. 具体的施策の実現プロセス(いわゆる工程表)

4. 定期的評価と計画見直しのルール

苦笑してしまいますが、何のことはない、これは長い間浸かってきた会社生活の中で、繰り返しやってきた「中長期経営計画」の策定セオリーそのものなのです。しかし考えてみると当たり前なのは、今回の「マニフェスト選挙」というのは、日本と言う名の<合名会社>の「中長期経営計画」そのものであり、選挙とは、次の「中計」とその推進リーダーを選ぶ社員投票であると言えるからです。

私の少ない経験では、「中計」成功のカギは大きく二つ、どちらが不十分でもまず失敗です。

①緻密な計画になっているか

今回の各党の「マニフェスト」には、まだまだ多くの空欄(不明点)があります。特に、実施の際、社員(国民)の受益については饒舌に述べられていますが、負担については避けて通れない部分も多いと考えられますが、ほとんど説明されていません。新たな政権が決まっても走り出す前に「マニフェスト」を緻密なものに完成させておく必要があります。

②これをやり遂げようという強い信念を社員の大半が持てるか
<マニフェスト実現>に対する政治家の信念のほどは分かりませんが、国民の側の情熱はさらに重要と思います。かつてのスーパーリーダー、J.F.ケネディは「Together!」と国民に呼びかけましたが、今の日本の新政権には、国民の側から、叱咤激励する必要があるのではないのでしょうか。「ダメだ」というのは簡単ですが、何せこの国は我々全国民が在籍する大事な<合名会社>なのですから。

■自分自身の「マニフェスト」、サーツの「マニフェスト」

各党の<マニフェスト不備批判>みたいなことを書きましたが、実は今回、最も感じたことは、「自分自身のマニフェスト」を持たねばダメかなという事でした。<計画一達成>・<計画一見直し>の繰り返しにはもう飽きたはずなのに・・・、「マニフェスト」が<チャレンジ>の後押しをしてくれるのなら今一度考えるか、という想いです。

でもその前に、驚いたことにサーツにも「中期計画」がありません。我々会員が、よりチャレンジャブルになれる「中期計画」、是非創りたいものです。色々な集団が「マニフェスト=中計」を持つのが常識になれば、政党の「マニフェスト」も、もっと緻密にならざるを得ないと思います。